



6月に入ってから10日までのデータ(気象庁)では、ずっと25度以上

新型コロナウイルス感染拡大防止を常に意識して過ごしてきた学校生活も2週間が過ぎようとしています。この間、気象庁データによると、6月に入ってからずっと最高気温25度以上の夏日が続いています。(その内、30度以上の真夏日が5日もありました!) まだ6月上旬ですが、熱中症で緊急搬送された人は、全国で千人を超え、県別では愛知県が最多。舗装された道が多いせいも、本県では場所として「道路」で熱中症となって搬送された人が多いようです。こうしたデータからも、熱中症対策に本腰を入れなければならない季節となったことを思い知らされます。

そこで、登下校時の熱中症予防対策として以下について、保護者の皆様にご承諾並びに、ご協力いただければと思います。

「冷却タオル」(水でぬらし首元を冷やすことができるタオル)

「日傘」(日光を遮れば雨傘でもかまいません)

もちろん強制ではありませんが、これらの利用を促進したいと思います。どちらも日常的に利用して良い物として扱い、学校へ利用の許可を申し出てください。必要はありません。(学校として使い方等の指導をしますが、ご家庭においても「記名」や安全な利用の仕方について話していただけると助かります。なお、これら以外の、例えば機械式のグッズの利用は、想定していません。)

「登下校時の給水ポイント」

通学班の状況(遠くから来ている、低学年が多いなど)に応じ、時間がかかっても、通学路の途中で足を止め、水分補給するポイントを決めています。

「下校時のミストシャワー」

昇降口にミストシャワーの設置を計画しています。下校時にミストを浴び、体全体を湿らせて下校させたいと思います。この期間は水で湿ると困るような衣服の着用を控えていただけると幸いです。

「荷物の軽量化」

体への負担を減らすため、できる限り、毎日の荷物を少なくできるよう工夫していきたいと思います。家庭学習との兼ね合いなども考慮して検討します。

これらの対応策については、PTA役員の皆さんを中心にご意見をうかがい、参考にさせていただきました。本年度は、夏休みを短くし、とても暑い時期に授業を行う予定です。子どもたちの健康、命を守るため、今後も対策の検討をしていきます。ご理解、ご協力をお願いいたします。



YOU&I インフォメーション



◆ きらきらチャレンジウィーク（6月21日<日>～6月27日<土>）

大府市では、幼稚園・保育園・児童（老人福祉）センター・小学校・中学校の連携だけではなく、保護者や地域も共通のねらいをもって、子どもたちを育てていくための指針「きらきら」を作成しています。この「きらきら」の取組の一つとして、市内一斉で行っているのが「きらきらチャレンジ」（チャレンジする期間が「きらきらチャレンジウィーク」）です。一人でテレビを見たりゲームをしたりするのではなく、家族で楽しく過ごしたり、自分の興味があることにチャレンジしたりすることを促しています。しかし、学校が臨時休業中、さんざんご家族と自宅でお過ごしいただいた今、何にチャレンジするよう子どもたちに話すべきか悩み、迷いました。

確かコロナに関わる首相の会見の中で、「自宅待機中に作られた良いスタイルは継続を」との主旨の発言がありました。そうした意味で、臨時休業中だからやってみた家族での新しい過ごし方や、初めて取り組んでみたことなどがあつたはず。（課題として示していた子どもたちの「日記」を読むと「いちごアメをつくってみたよ」「鯉のぼりケーキを作りました」「ミシンでマスクを自作した」「お父さんに買ってもらって初めてネイルをした」「時間を無駄にしないように時間の使い方を自分でいろいろ考えて行動した」「けん玉を練習して技を磨いた」「机の掃除と断捨離」とそれぞれ工夫して過ごしていたようです。）なので、今回は、休業中の良い取組を、新たな日常の取り組みとして定着させることにチャレンジしてはどうかと思います。

Looking back for けやきっ子

山本 瑛子： まずは「学校って楽しいんだ！」と思ってもらえるようなクラス作りを心がけ、「ピカピカの一年生」という言葉が似合うような時間を過ごさせてあげるよう努めた。幸せな給食の時間、歌の時間、かかわり合って楽しめる手遊びやゲームの時間が、もの足りないものになってしまうことが本当に心苦しいけれど、サイレントで「おいしい♡」を全力の顔で教えて！とか、握手の代わりに触れ合わないアクションを考えるなど、ただのガマンの時間にならないように、工夫して、楽しんでやっていきたい。

友田(教務)： 思い切ってできない状況下でも、子どもたちが学級での時間を楽しめるのは、先生がいろいろ工夫してくれているおかげですね。

ココン東西

外出自粛中の休日なので、時間潰しに映画「アイネクラ イネナハトムジーク」のDVDを見た。様々な出来事や人の思いが、時や場所を越えてつながっていく感じが良かった▼そんな映画を見た後、録りためていたテレビ番組を見た。コロナの影響で突然3月の学校が無くなったことを受け「卒業」をテーマにした歌番組だ。その番組で久しぶりに武田鉄矢さんが歌う「贈る言葉」を聴いた。そして思い出した。中学生の自分が、この曲（正確に言うところを）「悲しみこらえて微笑むよりも涙かれるまで泣くほうがいい」「人は悲しみが多いほど人には優しくできさる」「信じられぬと嘆くよりも人を信じて傷つくほうがいい」この言葉が、私の性格や考え方を肯定し、認め、救ってくれた▼この曲は私にとつてのアイネ（ある）クライネ（小さな）ナハトムジーク（小夜曲）だ。